

人生を「生きる」とはどういうことなのか。

在宅生活で最期まで「本人らしく」生ききっていただるために、

セラピストができることとは。

～ 国内唯一！「訪問リハビリテーション専門誌」最新号 6月15日発刊 ～

株式会社 gene (本社：愛知県名古屋市、代表取締役：張本 浩平、以下 gene)は、訪問リハビリテーションの実務書「隔月刊『訪問リハビリテーション』9巻2号」を2019年6月15日より発売いたします。本誌は、専門職としての視点でセラピストがしっかりと訪問リハビリテーションを考えるきっかけを提供すると共に、臨床で活躍する先人の知恵や実例を紹介し、学術的な問題にも着目する、我が国唯一の訪問リハビリテーション専門雑誌です。

▼書籍のサイト▼

<https://www.gene-books.jp/SHOP/J-HR-S050-9-02.html>

※メディア様への献本可能です。ご希望の場合お問合せください。

■書籍の内容

【 - 今号特集：「生きる」と訪問リハビリテーション - 】

今回は、多くの有識者の方から多面的に「生きる」と訪問リハビリテーションを、現場で臨床に取り組むセラピストの方々に論じていただきました。

誰しも「生きている意味」はある。私たちはこの立場をとり、「生きていること」を最初に肯定して、その中身を訪問セラピストの視点から論じたいと思います。

実際の「訪問リハビリテーション」を終了する理由は、主に下記の3つのパターンです。

- ① なんらかの理由による契約解除（ゴール達成による卒業も含む）
- ② 施設入所
- ③ 死亡

人生を「生きる」とは、どういうことなのでしょうか。それは、実は、他の人の課題ではなく、私やあなたのとても個人的な課題なのかもしれません。今号を通じて、読者の皆様と一緒に考えていく幸いです。

訪問リハに関わるセラピストのための実務書

訪問リハビリテーション

home care rehabilitation

volume 9-02 / 2019.06-07

9-02

<http://www.gene-books.jp/>

連載

訪問リハで働き方改革は実現できるのか

「訪問リハビリテーションと時間外労働対策」

小林 浩

連載

2035年問題と在宅における
リハビリテーション

「2035年問題と医療・介護現場」

松井 一人



特集

生きると 訪問リハビリテーション

⊕ 宗教観とリハビリテーション～僧侶と作業療法士の立場から～
堀越 啓仁⊕ 訪問リハビリテーションとがん・非がんのターミナルを生きる
星野 暢⊕ 訪問リハビリテーションと脳性麻痺を生きる
安井 隆光、加藤 寛聰⊕ 訪問リハビリテーションとパーキンソン病を生きる
原田 優平⊕ 訪問リハビリテーションと脳卒中を生きる
勝股 修二

■編者メッセージ

障害のある方が生活の場面を在宅に移行し、最期まで、自分らしく生き抜く時期。必ず訪れる人生の幕引きに向け、ご本人はどのように生き抜くか、周囲の人々はどうやって生きることを支えるか、どうしておけば見送ったあと後悔しないか等、悩まれる場面も多いのではないでしょうか。

本人の尊厳を最大限尊重し、そして見送った家族が後悔をしないように。利用者、ご家族と多くの話をする機会に恵まれている訪問セラピストだからこそ、「その方の人生にかかわっている」という自覚を持ったうえでの支援、環境設定が大切になってきます。

本書がセラピストの皆様の一助になりましたら幸いです。

【本書概要】

- タ イ ト ル：訪問リハビリテーション 9-02 号
- 発 行 元：株式会社 gene
- 価 格：¥2,160 (税込)
- 年間購読価格：¥12,000(税込)
- 判型・ページ数：B5 判・80P (平均)
- I S B N：978-4-905241-51-5

■目次

巻頭言「生きると訪問リハビリテーション」

張本 浩平

(特集)生きると訪問リハビリテーション

○宗教観とリハビリテーション～僧侶と作業療法士の立場から～

衆議院議員 立憲民主党 作業療法士 天台宗 僧侶

堀越 啓仁

○訪問リハビリテーションとがん・非がんのターミナルを生きる

東大宮訪問看護ステーション 作業療法士

星野 哲

○訪問リハビリテーションと脳性麻痺を生きる

株式会社 Loving Look こども訪問看護ステーション じん おかげ 代表取締役

理学療法士

安井 隆光

株式会社 Loving Look こども訪問看護ステーション じん おかざき
理学療法士
加藤 寛聰

○訪問リハビリテーションとパーキンソン病を生きる

公設宮代福祉医療センター六花 理学療法士
原田 優平

○訪問リハビリテーションと脳卒中を生きる

医療法人胡蝶会サンエイナースステーション 理学療法士
勝股 修二

(連載)

○訪問リハで働き方改革は実現できるのか②

「訪問リハビリテーションと時間外労働対策」

医療法人元生会 森山メモリアル病院地域ケア支援センター
居宅介護事業部 訪問リハビリテーション事業所 所長 理学療法士
小林 浩

○2035年問題と在宅におけるリハビリテーション②

「2035年問題と医療・介護現場」

株式会社ほっとリハビリシステムズ 代表取締役/理学療法士
松井 一人

■今後の展開

【 - 次号特集：「身体活動参加の見通しを考える」 - 】

第9巻3号では、訪問リハビリテーションにおける「身体活動参加」について特集いたします。

訪問セラピストは、雨の日も風の日もクライエントのご自宅に伺います。しかし、毎日「セラピストが来てくれる」という安心感が依存心の形成につながり、やがて本来おこなうべきリハに支障をきたすこともあります。

一方で、施設などに通ってくる方は、失語症でも片麻痺でも自力でやってこられます。定期的に通ってくるこの方々の精神の逞しさはどこから来るものなのでしょうか。訪問リハは世に必要なサービスだからこそ、近い未来を見通したうえで、責任を持って介入できるようになる必要があります。

■会社概要

商号 : 株式会社 gene
代表者 : 代表取締役 張本 浩平
所在地 : 〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1 丁目 26 番 12 号
IKKO 新栄ビル 6 階
設立 : 平成 19 年 1 月 31 日
事業内容 : コメディカルスタッフ対象のセミナー企画・運営・出版事業／事務局代行事業・貸会議室事業／介護保険事業（訪問看護ステーション・デイサービス運営）
資本金 : 1,000 万円
URL : <https://www.gene-llc.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

企業名 : 株式会社 gene
担当者名 : 出版事業部門 出版・制作チーム
TEL : 052-325-6611
Email : publisher@gene-llc.jp

巻頭言	097
-----	-----

特 集

生きると訪問リハビリテーション

宗教観とリハビリテーション ～僧侶と作業療法士の立場から～ 堀越 啓仁	100
訪問リハビリテーションとがん・非がんの ターミナルを生きる 星野 暢	110
訪問リハビリテーションと脳性麻痺を生きる 安井 隆光、加藤 寛聰	122
訪問リハビリテーションとパーキンソン病を生きる 原田 倫平	134
訪問リハビリテーションと脳卒中を生きる 勝股 修二	142

連 載

訪問リハで働き方改革は実現できるのか② 訪問リハビリテーションと時間外労働対策 小林 浩	152
2035年問題と在宅におけるリハビリテーション② 2035年問題と医療・介護現場 松井 一人	162
次号予告	178
奥付	179

緩和ケアの意図をよく理解して、「生きる」ことに視点を置き「緩和ケア」という言葉を出さずとも行っていく工夫を身につけていくべきと考える。

2. 在宅ホスピスケア

ホスピスは英国シシリー・ソンダース女史(1918-2005)によって創設されたセント・クリストファー・ホスピスを起として世に知られるようになった。「死の顔を変えた女性」とある書籍で目にしたことがあるが、死に直面した人々の「痛み」を体系立てた人物である。死に向かっていく人の痛みは身体的な痛みのみならず、精神的苦痛、スピリチュアル的な苦痛、社会的な苦痛を総じて考えるべき(トータルペイン)(図2)とした。

訪問時にクライエントと話をすると、さまざまなことを聞く。もちろん、症状や身体的なこ

とについても耳にするが、残される家族の悲嘆に向き合い、介護負担の重さに戸惑い、自分自身の在り方を問うような話も実際に多い。ご家族がそれぞれの思いや行動を通じて自分の役割を果たすとき(家族ダイナミクス:後述)、自宅にいると、それはクライエントを中心としたなかで展開されていく。あるクライエントは「自分が病院にいる間にたくさん家族で話したようだ。でも気を遣ってくれることが心苦しくて……。自宅に帰ってきて、家族と笑うことも真剣なことも、つらいことも、一緒に話して乗り越えた方がずっと楽だ」ということが分かった」とおっしゃった。在宅ホスピスのよさはそこにある。

平成19年度内閣府の調査結果によると、「痛みを伴う末期状態(余命が半年以下)」の場合の『希望する療養場所』『希望する看取りの場』は変化することが示されている(図3)。終末

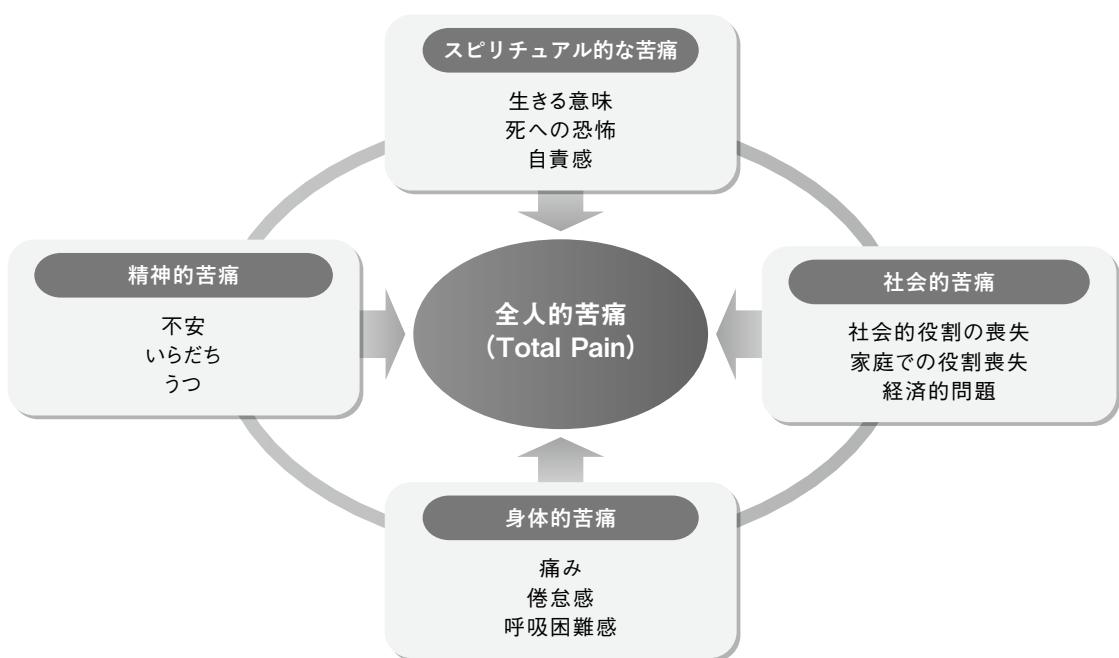


図2 トータルペインの概念